

槇尾山 西明寺

Makinoosan Saimyōji

電車でお越しの方
京都駅(JR・近鉄)でJR嵯峨野線に乗車
JR嵯峨野線花園駅で下車
タクシーで約10分

バスでお越しの方
◎JRバス
JR京都駅前乗り場(中央口よりすぐ)で乗車、
槇ノ尾で下車、約50分
(「槇ノ尾」バス停より徒歩5分)
◎京都市バス
8番で、烏丸四条～四条大宮～天神川～福王子を
経由、高雄で下車、約1時間。
(「高雄」バス停より徒歩10分)
※当寺は駐車場がございません。公共交通機関をご利用ください。

西明寺

〒616-8291 京都市右京区梅ヶ畠槇尾町1
075-861-1770
<https://www.saimyoji.or.jp>
拝観時間／9:00～17:00

E3D Map

Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

文化庁 令和元年度
文化財多言語解説整備事業

E3D Map の使い方

1 QRコードをカメラもしくはQRコードリーダーに写します。

2 QRコードから呼び出したE3Dmpから、観たいスポットをタップしてご覧ください。

③動画と建物内部3Dを閲覧することができます。マップにあるボタンをタップしてご覧ください。

E3D
Map

槇尾山・西明寺

西明寺は古義真言宗に属し槇尾山と号す。高雄山・神護寺、梅尾山・高山寺と共に三尾の名刹のひとつとして知られる。清滝川のせせらぎと共に、春の桜、つつじ、初夏の新緑、秋の紅葉、冬の雪景色と、四季おりおりの自然豊かな山寺である。

天長年間(824～34)に弘法大師の高弟・智泉大徳によって神護寺の別院として開かれた。その後荒廃したが、建治年間(1275～78)に和泉国・槇尾山寺の我宝自性上人が中興し、正応三年(1290)に平等心王院の号を後宇多法皇より命名賜り、神護寺より独立した。その後、永禄年間(1558～70)に兵火にあって焼亡したが、慶長七年(1602)に明忍律師によって再興された。



「三尾(さんび)」

京都市の西北の地に、高雄(尾)山、檜尾山、梅尾山の三つの尾根(三尾)がつらなって並んでいる。春の桜・山つじ、初夏の新緑、秋の紅葉、冬の雪景色といった自然豊かな山間の地である。それぞれの麓には、神護寺、西明寺、高山寺の名刹が佇んでいる。真言密教の発祥の地であり、1,000年以上の悠久の歴史を刻んでいる。

三尾の地は、貴重な文化財の宝庫となっており、密教文化の礎となっている。



建造物について

本堂

元禄十三年(1700)に五代將軍・徳川綱吉の生母・桂昌院の寄進によって再建された。桁行7間、梁行4間で、内部は梁行に3分されている。中央間が内陣で、後方に四天柱を建てて逆蓮擬宝珠付きの唐様須弥壇に厨子が奉安されている。東西の脇陣が外陣の役割を果たしており、真言宗寺院の本堂としては特異な平面構造となっている。正面入口の梁上に「靈山鷲心(空海)」の額が掲げられており、靈鷲山で瞑想している釈尊の心境を表現している。本堂の東側には五色の苔庭が広がっており、宝篋印塔の傍の紅葉と併せ、見る人々の心を癒してくれる。

客殿

本堂の西側(左側)に建てられており、本堂の左後方と短い渡り廊下で結ばれている。造営は本堂より古く、江戸時代前期(1650年頃)に移築された建造物である。当時は食堂と称し、僧侶の生活や修行の道場として使用されていた。前列2室、後列3室からなり、前列南室には、慶長・元和年間に三度にわたって制定された九ヶ条からなる「平等心王院僧制」の木札が掲げられている。幅広い廊下には半鐘と雲盤が吊り下げられており、法式に使われていた鐘である。渡り廊下の傍には池庭が広がっており、池に映る逆さモミジを楽しむことができる。

聖天堂

元禄時代に造営された建造物で、堂内には歡喜天(聖天)が秘仏として祀られている。拝殿の前に白幕が掛けられており、お供物の大根と御団の紋が染められている。大根は夫婦和合・家庭円満のご利益を、御団は金運招福・商売繁盛のご利益を授ける歡喜天の誓願を表現している。聖天堂と本堂をつなぐ渡り廊下は古風な造りで、廊下から眺める苔庭の風景は格別の美しさである。

仏像について

釈迦如来像

本堂内陣の正面の須弥壇上に二重の厨子内に安置されている本尊で、鎌倉時代に仏師・運慶によって彫られた立像である。清涼寺式釈迦如来像で生前の釈尊の面影を伝えており、重要文化財となっている。右手で施無畏印、左手で与願印を結んで、人々に説法している姿を顯している。釈尊は2500年前に印度国に生まれ、仏教を創設された。その教えは、「万物は因、縁、果の法に従う。因、縁、果の法を見る時、正智を生ずる時、正しい生活が行われる。正しい生活が行われる時、苦しみ、悩みから救われ、ここに平安の光明が実現する。」と説かれている。

千手・十一面觀音菩薩像

本堂の東脇陣に安置されており、平安時代に彫られた檜の寄木つくりの立像で、重要文化財となっている。頭上に十面を戴き、宝冠をかぶり、合掌する真手を含め四十二手の千手・十一面觀音像である。細面で鼻筋が通った繊細な顔立ちをした像である。慈悲の力を持って衆生の苦しみを救うと信仰されている。

愛染明王像

本堂の東脇陣に安置されており、鎌倉時代後期に慶派に連なる仏師によって彫られた坐像である。五鉢を戴く獅子冠を頭上に乗せ、三目を凝らせ、開口して牙齒と舌先を現わし、六臂の各手に法具や弓箭等を執って座っている。我宝自性上人の念持本尊で、愛の力を授かるとして古来より多くの人々に拝まれてきた仏像である。



西明寺境内図